

環境科学科 雪ついで体験 造園業界の魅力を学ぶ！

生徒に教えながら作業をする会員ら＝高山市山田町、飛騨高山高校山田キャンパス



飛騨高山高生と「雪ついで」

県造園緑化協会 業界の魅力を伝える

高山市や飛騨市の造園業者でつくる県造園緑化協会飛騨支部（間賢一支部長は15日、後継者となる人材を育成しようと、高山市山田町の飛騨高山高校山田キャンパスで、雪の重みから木を守るための「雪ついで」や「雪囲い」の作業に生徒と一緒に取り組み、造園業界で働く魅力を伝えた。

同支部には28社が所属。発足50周年を迎えたことに合わせた記念事業の一環で、高校生への直接的な指導を通して、業界で働く楽

しさを体感してもらおうと初めて企画した。この日は同支部から会員10人ほどが参加し、環境科学科の2年生14人と同キャンパス玄関付近のマツやツツジで作業を行った。雪ついでや雪囲いの方法やきれいな見栄えにするためのコツを教えた後、生徒と一緒に作業を進めた。

森前秀太さん(16)は「見たこととはあったけど、どういう方法でやっているのか知らず、職人の工夫がよく分かった。職業選択の参考にもなる」と話した。間支部長は「面白さが少しでも伝わり、造園分野に興味をもってもらえればうれしい」と話した。

同支部では今後、年4回程度、せん定や造園技法などを伝え、継続的に人材育成に取り組んでいくという。(玉田健太)